

(一般情報)

トマト産地をリードする先駆者たち ～JA 長生施設野菜部会 長段トマト部の取組～

長生農業事務所改良普及課 令和元年6月11日発

JA 長生施設野菜部会長段トマト部では、単位面積当たりの収量の増加を図るため、収穫期間が10月～翌年7月の10か月間と長期間に渡る「年1作長期どり栽培（長段栽培）」に取り組んでいます。「収量10aあたり30t以上」を目標に掲げ、施設内環境やトマトの生育状況をモニタリングして数値化し、スマートフォンのアプリを活用して、部員同士で共有することで相互研鑽し、栽培技術の向上を図っています。

5月16日には、長段トマト部の技術向上に向けた取組のひとつとして、トマトの着果や肥大などを見てまわる立毛共進会が開催されました。県農林総合研究センター、役場、市場関係者、農業事務所による審査では、「栽培期後半まで管理が徹底されている」「部員同士の相互研鑽が熱心である様子が伝わる」等の高い評価となりました。農業事務所は、今後も関係機関と連携し、目標達成に向けて、栽培技術向上や経営改善を支援します。



長段トマトの立毛審査の様子



環境モニタリング装置で管理された施設